

2021.3.22

オンライン授業 報告 (V2学年)

まとめ： 吉田泰明

① オンライン授業の功罪

○ メリット

- いつでもどこでも授業ができる。(田村)
- 感染症対策にはなる。(高木)
- クラスを越えて多くの生徒に対して、一斉に授業を行うことができる。(田村)
- 録画しやすく、体調不良で休んでも、録画を見れば授業内容がわかる。(田村)
- 配布プリントをデータでクラウド上に保存することで、生徒は何度でも印刷して使えた。(西村)
- 生徒が主体的に質問してきたり添削依頼してくる限りにおいて、やりとりを最速でしたならば演習量が上がること。(西村)
- 今後もマスク着用はしばらく続くので、英語の発音に関してはオンラインの際に、音読を増やし画面越しに発音指導をすることができる。(山崎)

× デメリット

- オンライン授業は、対面授業よりきっと楽しくない。(吉田)
- 長時間、ディスプレイの前に座り続けるのは、不健康。体力も落ちる。(高木)
- 効果が上がった生徒とそうでない生徒の差が激しかった。ミニ講座を開設したが、それにも参加してこない生徒についてはどうしようもなかった。(宮浦)
- 一度に画面に映る生徒数が限られているため、全体の様子や反応を見ることが困難。(山崎)
- 教材準備に非常に時間がかかった。(宮浦)
- データとして保存できることから、生徒自身が手を動かす機会が減ってしまった。(山崎)
- 紙ベースでないため、提出物のチェックや添削に時間がかかる。(田村・山崎)

× デメリット

- 生徒同士だけで雑談が出来る「休み時間」がないこと。何気ないようであり、友人の中で自分がどういう立ち位置なのか(わからないと悩んでいた問題が実はみんなも悩む難問であったとか、自分でできなくていいと決めつけていた問題が実はみんなは解けていてできなければまずいものであったとか)がわからないことは、実は大きい。その結果、「自分はできないやつだ」という劣等感にさいなまれて病みかける生徒もいた。(西村)

② これまでに行った
効果的な工夫

(体制)

「学びを止めない」を、
すばやく実施
かつ、V2なので
「受験勉強を止めない」
を強く意識！

休校になった瞬間から、

課題指示➡Stream配信➡体制の確立(最適化)
➡iPad買ってくれ！➡時間割の工夫

V2学年の学習体制の概略

<通常時>

時間割/クラス

- ・授業
- ・特別講座
- ・課題

細分化

- 学力
- 学習習慣
- 理解度

「養う力」

- ・基礎運用力
- ・難関大学への対応
- ・**真の学びへのシフト**

<配信時>

Web対応時間割

- ・Zoom
- ・Project
- ・Stream

最適化

- 双方向性 ⇒ 生活習慣, 協働性
- 発信意欲 ⇒ 表現力, 思考力
- 再生回数 ⇒ 理解度, 定着度
- マネジメント力

オンライン授業の留意点

- あくまで体調管理を最優先
- 学校の学びを止めない
 - 双方向を意識(出欠・提出・質問対応)
 - 基本的な生活習慣(朝夕の運動も検討)
 - 9月新学期案(生涯教育・真の学び)
- 7月末まで続く可能性(1学期はオンライン)

生徒保護者連絡会
をZoomで、
一斉保護者会や学年集会
以上の回数実施！

オンラインは、やっていることの意図や内容が伝わりにくく、未知の領域が多かったことから、伝える機会をとにかく増やした。

資料

7:00起床 まだまだ寒いけど、太陽の力であつたまろう。

第5週

~8:00 PMTM健康観察提出・そろえてよー!

8:30~ SHR

各授業出席確認点呼あり

1h 現代文共通テスト対策

2h 英文読解(九州大学)

3h 政経 / 数+

4h 数学IA

5h 現代文 / 地理

4
月
29
日
(水)
日直
橋本

14:15~保護者・生徒連絡会(457-120-2878)

英語

学習体制	名称	実施方法 (しくみ)	どのような能力を 育成するのか (目的)	学習効果 (目標)
MA 1日1題 (毎日)	リスニング	・演習(Forms) ・パワポ解説	演習を行うことで、共通テストに向けた基礎運用能力を養成する。	共通テ:L満点
	スクランブル チャンク	・演習(Forms)	語彙・文法・語法・イディオムを定着させ、基礎学力に結び付ける。	共通テRL:7割以上
	一日二題英文 解釈 / 一日一題長文	・自習(P) 東大:個別 京大:pdf + 応相談	二次試験レベルの基礎運用能力を養成する。	二次・私大:盤石な対策なりの点数

資料

学習体制	名称	実施方法 (しくみ)	どのような能力を 育成するのか (目的)	学習効果 (目標)
授業 各週1	共通テスト対策	<ul style="list-style-type: none"> ・Zoomにて出欠質問対応 ・演習(Forms) ・パワポ解説 	共通テストRの演習を通し, 受験 基礎運用 能力を養う。	共通テR:満点 二次・私大:読解内容把握合格ライン
	英作文	<ul style="list-style-type: none"> ・課題→添削 ・Zoomにて出欠質問対応 ・Stream解説配信 	二次・私大の英作の 基礎運用 能力を養う。	二次・私大: 英作合格ライン
	英文読解	<ul style="list-style-type: none"> ・課題→添削 ・Zoom,PPT授業 (1~2組) ・Zoomにて出欠質問対応 ・Stream解説配信 (3組) 	各大学の過去問演習により, 二次・私大の応用力を養う。 1~2組:難関国公立 3組:東大・京大	二次・私大: 長文読解合格ライン

「受験勉強」は、 量×質×継続 の掛け算である！

オンライン授業を、対面授業の代替物だと考えるなら、受験には絶対に勝てない。学年として本来用意するものと同等のものを必ず準備しないと受験には勝てないと判断。

2学期の新学習体制

学校の学びを止めない(4月より)

→9月新学習体制構想

- ・コロナ禍で最適化された学習体制が必要

“ 午前授業＋午後講座 ” を採用

- ・オンライン体制の継続(⇔ただし, 対面を採用)

午前:クラス別Zoom ID 午後:志望別Zoom ID

資料

□ “午前授業＋午後講座”のイメージ

	時限	時間	月	火	水	木	金	土
授業	1	8:40~9:30	LHR		体育	体育	PM・TM	
	2	9:40~10:30		体育				
	3	10:40~11:30						
	4	11:40~12:30						
講座	5	13:10~14:00	13:30~14:20					
	6	14:10~15:00	14:30~15:20					
	7	15:00~16:00	15:30~16:20					
	8	16:50~17:40						
	9	17:50~18:40						
	9自学	19:15~20:45						

資料

□ 午後分類

東大・文
東大・理
京都・文
京都・理
阪大・文
阪大・理
神大・文
神大・理
国・文
国・理

□ 授業と講座の割当

教科 (科目)	文系		理系	
	授業	講座	授業	講座
現代文3	1	2	1	2
古典4	2	2	2	2
英語7	3	4	3	4
数学7	4	3	5	2
理科4,10	4	0	6	4
地歴5,4	3	2	2	1
公民4,0	2	2		
合計	19	15	19	15

新学習体制は圧倒的学習量を確保

⇒夏休みを，“あと2回”経験できる！？

日本一学習した高校生への挑戦！！

2学期前半 : 2次学力整理期間

9月3日(木)~10月22日(木) 50日間

2学期後半 : 本番想定(2)

10月23日(金)~12月11日(金) 50日間

共通テスト直前期 :

12月12日(金)~1月15日(金) 35日間

② これまでに行った
効果的な工夫

(授業・その他)

- パフォーマンス的な授業を行った。NHKなどマスコミにも取り上げてもらった。(吉田)
- マイク・スピーカー・ペンタブレットを用いて授業をした。ペンタブレットを利用して書き込みは能率的であった。(宮浦)
- 医学部ミーティング→オンライン期間中も新型コロナウイルスや医療崩壊など医療ニュースについて討論できたことで、チーム意識ができた。(田村)
- 医学部面接指導→必要に応じて、直前でもZOOMを通じて面接練習ができた。(田村)
- パワポを使用することで、長文全体のイメージや内容を把握しやすくした。パワポに本文を写しだし、直接書き込むことで(PCでは不可)本文を板書する時間節約になる。そしてその書き込んだものをデータとして保存できる。Formsを利用し、正答率や誤答の分析をその場で行い解説を行った。長文やリスニング素材に関連する動画を使用することで記憶に残りやすくした。(西村)
- グループ分けをして、生徒たち同士で話しあうことで自主的に学ぶ機会を設けることができた。(西村)

- オンラインでは、逆にアニメーション動画などを共有しやすい(対面の場合、プロジェクタやスクリーンなどの準備がある)ので、要所で用いました。またプリントpdfファイルをオンタイムで配布できるのはオンラインならではの、と思います。(池田)
- 映像の解像度が落ちるため、板書はできるだけ近くから映し、内容を厳選して書くようにしました。音もとんだりするなど、常に情報伝達障害の心配があるため、ミュートの状態でも生徒にこまめに反応を伺うようにしました。(池田)
- Teamsを通じての生徒とのやり取りをどんな時間でも対応しました。ハンディサイズのホワイトボードは自宅に常備して、質問対応しました。Zoomでも少人数のほうがやり取りをしやすいです。赤本の答案添削はteamsを通じて行いました。(池田)

③ 要改善·反省点

- オンライン授業に適応できない生徒に対するフォローの方策を考える。(宮浦)
- Zoom授業中に無関係の人がチャットしてくる事例があった。(田村)
- Zoom授業中に、生徒指導に関わる案件が発覚。受験勉強の提供に必死で、生徒指導を甘くみていた。(吉田)
- Zoomは、会議アプリではあるが、授業支援ツールではない。(吉田)
- 授業力の差は、ITリテラシーとやる気である。(吉田)

④ 今後の展望 (有効活用に向けて)

- 各先生方が映像授業に対して思っておられることを伺いすることでより良い授業展開ができると思う。(池田)
- 平時にオンライン授業の研究授業をする価値はあると思います。手間ひまをかければ質は向上するでしょうが、実際の担当コマ数を考えるとそのような準備時間は確保できません。準備時間が短い中での授業の仕方について、知恵の共有は必要だと思います。(高木)
- 卒業生講演会、平和講話など、今まで対面であったものを適度にオンライン化することによって、経費や手間の削減につなげることができる。一方で、対面の重要性を再認識することも大切である。(吉田)